

# SHIN CLUB 186

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「更生保護法人善隣厚生会」

撮影：浅川敏

## 希望

『ショーシャンクの空に』というアメリカ映画があります。主人公アンディが、妻殺しの冤罪で刑務所に入れられ、看守に暴力を受けたり、悪徳署長の不正を手伝わされたり、と過酷な状況にありながら、刑務所内の環境を改善し、最後には脱獄して自分の人生を取り戻す話です。映画の中で、囚書係の老人が50年の刑期を終えて、出所する場面を思い出しました。高齢、貧困、友達は刑務所の中しかおらず、仕事はろくにできない。絶望した彼は、“BROOKS WAS HERE” / 「ブルックスここにあり」という言葉を残して自殺してしまいます。

これは映画の中の話ですが、実際、罪を犯した人が再び社会へ出て自立するためには適切な支援が欠かせません。再犯を起こさせないためにも必要なことです。これを「更生保護」と呼んでいます。

法務省のHPによると、行政の組織では「法務省保護局」の下に、「地方更生保護委員会」、「保護観察庁」というものがあり、なかでも「保護観察庁」は各地方裁判所の管轄区域ごとに全国50か所に置かれ、更生保護の第一線の実施機関としていろいろな機能を果たしています。

一方、日本の近代の「更生保護」は民間の篤志家の活力によって開かれたものであり、それは現在も、保護司制度や、更生保護法人、更生保護女性会、BBS (Big Brothers and Sisters Movement=問題を抱えた青少年たちと年齢の近いお兄さん、お姉さんとしてサポートする若者の運動) といった、多数の民間団体に脈々と引き継がれています。

日本では、このような組織の官民一体となった協働により「更生保護」は行われてきたのです。

更生保護施設は矯正施設を退所したものの、住所や就職先がすぐには見つからない、支援の必要な人を一定期間引き受ける施設です。現在、全国に103施設あり、全て民間の非営利団体によって運営されています。

うち100施設は、法務大臣の認可を受けて更生保護事業を営む更生保護法人、その他3施設は、社会福祉法人、NPO法人、一般社団法人によって運営されています。

写真の「更生保護法人善隣厚生会」はそんな保護施設の一つです。李秀夫理事長によると、ほとんどの施設は都心にあり、また地方の保護対象者も、地方で就職先を見つけるのが困難なため、結局、仕事のある都心の施設への申込が多いということです。

以前建っていた建物はそのような支援施設でありながら、やはり年代を感じさせる少し閉鎖的な部分もあり、今回建物を設計した林康弘氏は、「新たな気持ちで社会に出ていく人の、夢や希望を応援するような、開かれた建物にしたいと思った」と語りました。

「更生保護」における犯罪予防活動は、それぞれの地域において保護司を始めとする更生保護ボランティアを中心に、地方自治体や地域の関係機関等と連携して進められています。

法務局が主唱し、今年で65回目を迎える「社会を明るくする運動～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～」はもともと、銀座の商店街が始められた運動でした。

また、刑務所出所者等をその事情を理解した上で雇用し、改善更生に協力する民間の事業主、「協力雇用主」という制度には、いろいろと国の支援も用意されています。

夏休みの中学生2人が犠牲となった痛ましい事件は、容疑者が「再犯」という可能性が出ています。子供の見守り、そして社会復帰を目指す人への支援、それぞれ、皆で考えたい問題ではないでしょうか。



更生保護法人善隣厚生会

再出発を支える、開かれた空間

建物は、過ちを犯し、一定期間のお務めを終えて、新たに社会に復帰する人の準備期間を引き受ける施設である。

敷地には、これまで築約 50 年の 4 階建の建物が建っており、老朽化もあって建て直すこととなったのだが、既存の建物は一部鉄格子も設けられて、閉ざされた空間であった。

これまで閉ざされた空間で過ごしていた人が、新たな人生を歩むためには、もう少し明るい希望と夢を持てるような施設を計画したい。そのためには建築は、社会に対して開かれた空間であるべきだと考えた。

まず入居者の部屋は、20 人収容という与件のため、2 人部屋となっている。最近では、どんな施設も 1 人部屋が基本かもしれないが、使い勝手の良いレイアウトにし、この建築の中心となる、大きく天空が見える吹抜空間に対して開放し、部屋の窓を通して光と風が降り注ぐ、自然の良さが体感できる空間とした。

一方、周辺は住宅街であり、あまり開放してしまうと、プライバシーにも問題が出るということで、鋼製のフレームに木製ルーバーで閉じた外殻を作り、視線を避けることとした。ベランダデッキも大きく取って入居者間のコミュニケーションを図りたかったが、管理者側の一定の配慮を優先させた。

1 階の食堂の前にはデッキを設けて、地域住民とのコミュニティの場となる、開放的なスペースを設けた。例えば餅つきなどの行事を通じて、生活することの楽しさ、自分達も同じ社会の一員であるという感覚を少しでも感じてもらえたらと思う。

罪を犯した人の社会復帰にはいろいろな意見があると思われるが、建築だけではなく、社会全体が彼らを受け入れる意識が必要ではないか。特にその再出発の最初の支援がスムーズに行くことを願っている。

(林康弘氏 談)



所在地：渋谷区  
構造：S 造  
規模：地上 3 階  
用途：共同住宅  
設計：林康弘 / アーキステーション  
施工担当：松沢  
竣工：2015 年 7 月  
撮影：浅川敏



①南西側外観。ルーバーで仕切られた落ち着いたたたずまい②ルーバー内側の吹き抜け空間。エントランスとコミュニケーションを図るオープンスペース③ルーバーを保持する鉄骨には明るい色の塗装が施されている④入居者の個室は 2 人部屋。シンプルで使いやすく明るい⑤1 階食堂。地域の方々の集会室としても使用可能。テレビなども設置⑥玄関。左手は受付・事務室、右手は収納が並ぶ⑦風呂場。基本 2 人ずつ使用可能。洗濯は各自で行う⑧ 3 階の宿直室。畳部屋で、4、5 人での談話室としても機能⑨夜景。集会室、事務所内部は通りからもよく見えるオープンなエントランス





林康弘氏。瀬田の事務所にて 撮影：アック東京

今月は、「更生法人善隣厚生会」の設計を担当された、林康弘氏にご登場いただきます。弊社では、2008年、「Y's Annex green court」(写真③)という賃貸集合住宅の施工を担当させていただきました。

—お仕事を拝見しますと、弊社が施工させていただいた「Y'sシリーズ」のようなマンションから、商業施設、病院、リゾート計画など、多岐にわたっていらっしゃいますね。

林：そうですね。大学を卒業して、将来オールマイティな設計ができるようにそれぞれの特色を持った何社かの設計事務所で修行させていただきました。

気持ちのいい空間、精神的な豊かさをどこかに入れていきたい、という思いはいつでもありますね。インテリアも好きなので、インテリアデザインだけのときもあります。飲食店は、自分が飲み喰いが好きなので、いくつかやらせてもらってます。(笑)

それでも、年齢とともにデザイン性を重視したものは少なくなり、本当の居心地良さとは何かを考えるようになりましたね。

内装はともかく、建築は短期間で済むものではないので、しっかりとしたプランが必要です。その意味で、辰は設計事務所との付き合いが多い会社なので、設計主旨をきちんとわかっていただける施工会社だと思います。同じ方向性を向いていないと、ものづくりはできないと思っていますから。

—お客様もこだわりのある方が少なくないですね。

林：基本的には、こちらの考え方を受けていただいて、ずっとお付き合いしていただけるので、新しい空間に対して新しい方向性でとらえて、使っていただければいいのですけどね。

今回の更生保護施設という建物は、入居される方たちを人として信用したうえで近隣の方々にも相当ご理解いただかないといけないので、社会全体が開けた考え方を持っていていただかないと成立しません。

—事件が起きると困りますね。

林：そうですね。法務省の方と落成式の時にお話したのですが、こんなに開いた空間の施設は、全国にはほとんどないということらしいです。「これ

からは必要なのかな」という話をされてましたね。近隣との関係ですぐには難しいかもしれませんが、再出発する人たちに、3、4か月の時間だけでも、居心地の良い場所になってほしい。

こういう施設は全国でも数が少なく、県で1つか2つでしょう。それに地方のその施設を出ても就職する場所がないため、結局、都心に希望が集まるということです。また、4か月など一定期間滞在させるだけではだめで、カウンセリングとか、もっとケアを大事にしていけば、よりいいのではないのでしょうか。今回、この開いた空間を作ったことで、新しい方向性を刺激できれば、と感じます。

—新しい提案といえば、弊社で施工させていただいた「Y's シリーズ」の単身者向けマンションは、ファミリー、夫婦、その前の単身者向け賃貸マンションとして、シリーズで作られていったのでしたね。

林：千葉の船橋のあの場所で、家賃は周辺相場より約2割高で、地元の不動産会社ではこの物件のクオリティを生かしてもらえないという判断で、青山の不動産会社に募集を依頼しました。東京駅から約30分というアクセスの良さと、入居してくださったのは、その価値がわかる東京の方がほとんどでしたね。

こちらの泌尿器科医院(「K-CLINIC」写真②)では、中庭を介して、待合を女と男に分けたプランを作りました。(施工は別の会社だったがメンテナンスは現在辰で行っている)玄関ロビーの目隠しで視線を合わせないように、男女別のアクセスを設ける工夫を行ったのです。泌尿器科の女性の患者さんは意外に多いのですが、入口を分けている医院はまだ少ないそうですね。

病院であれ、マンションであれ、いろいろなことに対して、まだまだ改善の余地があると思います。なにか、今までにないようなものを提案していきたいと常々思っています。そのためには、やはりお施主さんといろいろコミュニケーションをとる、事前の打ち合わせの重要性を感じますね。

プランニングの前のヒアリング、それが大事。結局プランですね。—本日はありがとうございました。

## 「新しい提案をプランに反映させるためには、事前のヒアリングがとても重要だと思いますね」

### 林 康弘

1955年 三重県生まれ  
1978年 日本大学建築学科卒業  
1978年～84年 総合設計社  
1984年～85年 アトリエダググ チーフデザイナー  
1986年～92年 海老沢宏環境工房 取締役設計部長  
1992年 アーキステーション 設立 代表取締役  
現在に至る



①J HOTEL：千葉県船橋市  
②K CLINIC：神奈川県川崎市  
③Y's ANNEX green court：千葉県船橋市 (ShinClub103で紹介)

「更生保護法人善隣厚生会 落成式」 7月30日

さる7月30日、今月の作品紹介でご紹介した「更生保護法人善隣厚生会」の「落成式」が東京オペラシティの東天紅にて執り行われました。

当日は、東京保護観察所の荒木龍彦所長、法務省から片岡弘保護局長、樋口尚也衆議院議員、保護司を務める地元区議会議員の方々も出席。駐日韓国大使館からも金容吉総領事が参席し、設計

者、施工者への感謝状授与も行われました。

保護対象者の経済的自立には、「より多くの協力企業の支援が必要不可欠」と李理事長は述べられています。年に1回の餅つき行事には、地元町内会から50～60人が参加しているとのこと。

新しく建ち上がった建物が、さらに地域の方々の良好な関係を維持し、保護者の自立支援のために機能していくことでしょう。



①



②



③

- ①挨拶をする李秀夫理事長
- ②設計の林康弘氏／アーキステーションへ感謝状が贈られた
- ③同じく施工者として、感謝状をいただく弊社長森村

社内勉強会「総合仮設計画等の講習会 ～清水建設 榎田真一氏をお招きして～」 8月8日



榎田 真一氏  
清水建設建築事業本部 東京支店 建築第三部  
平成6年入社。西東京・海外・名古屋支店で勤務後、10年前から東京支店で施工管理を行う。

弊社では、年に数回、全社勉強会を開催しておりますが、8月は、清水建設の榎田真一氏を講師にお迎えして、「総合仮設計画等の講習会」を開催しました。

榎田氏は、現在、グループ会社「ユニホー」が発注している「(仮称)銀座7丁目ホテル新築工事」を施工中の清水建設の現場所長です。

ここは弊社が通常行っている工事よりも、かなり広い敷地に建つ大型物件です。都心で行っていることもあり、仮設計画は最重要事項のため、現場スタッフで作成されているとのこと。

全体講義の後、課題演習として、ある現場での課題図面に追記して、各10分で図面を完成させる次の問題が出されました。

- ①構台検討
- ②外部足場検討
- ③コンクリート打ち出し階段施工計画

4つに分かれた班内で意見交換。聞いている方は短時間で作業に気をもむばかりです。その後、各班が結果を発表、講評いただきました。

最後に、

- ・総合仮設計画図は現場管理者の意思を表現する基本設計図
  - ・目的を意識し、「その気になって」検討し、「使える(指示書)」図面を作成
  - ・作成した計画図、信頼する施工図工から与えられた計画図でも見直しは常に必要
- などの重要事項を再確認し、終了となりました。



讃井チーム



岩本チーム



夏井チーム



リニューアル・営業部門チーム

「(仮称) Harajuku Expanding Landscape 新築工事」  
地鎮祭 7月31日



キャットストリート沿いに、新たな空間を創造する建物を建築させていただきます。

構造：RC造  
規模：地下1階 地上1階  
用途：ギャラリー  
設計：アーキタイプ  
完成予定：2016年3月

「日工産業株式会社本社ビル 新築工事」  
地鎮祭 8月21日



青雲の志を受けて、新橋に本社ビルを建築させていただきます。

構造：S造  
規模：地下1階 地上5階  
用途：事務所  
設計：石原山口計画研究所  
完成予定：2016年7月

編集後記

・酷暑の後、涼しい日が続きます。台風などの風雨の勢いも、熱帯の気候のように昔に比べて強くなったようです。多くの情報が入ることで、予報やリスク管理が行き届くようになりましたが、いろいろなことに気が付くべき、人間本来の機能が劣化していないか、わが身を振り返り、感じます。